



会長ごあいさつ



第19代会長
小林 純子
(H26)

丘光会役員としての働きが、神様の導きそして皆様方の協力の基、初年度終えられた事に感謝いたします。今回は、ウェルカムランチ、卒業生対象の説明会について、書かせていただきます。

ウェルカムランチは、丘光会の事を少しでも知っていただくために、卒業年の学級委員の方々に卒業後代議員として、丘光会との関わりを持っていただく事を説明させていただきま

す。以前は、ランチタイムを共有していましたが、時期的に受験等と重なってしまうために、

ケーキとお茶のティータイムにして、時期も見直し、生徒の皆様

様の負担を少しでも少なくする様にしました。生徒の皆様と役員が話し合いを持てる場となります。

（有意義な）

卒業式直前の日に全卒業生の皆様対象にブリテンホールで丘光会の説明・規約を渡し、理解していただく様に時間を持ち、同時に卒業プレゼントも渡す事になりました。プレゼントも試行錯誤いたしますが、昨年よりとても喜んでいただけています。男子の方々も加わり、更なる発展を望める期待を持ち、丘光会の運営をしていきたいと思っております。

校訓

心を清め人に仕えよ

2025年度総会お知らせ

2025年5月17日(土)

礼拝・総会

10時30分

於 礼拝堂

受付10時より

参加費

昼食・写真代込

2,000円

総会は会員の皆様ならどなたでも参加出来ます。お友達とお誘い合わせて、是非ご出席ください。勿論、お一人でも歓迎いたします。総会の後、ミニクラス会などいかがでしょうか。

いつも丘光会へのご協力をありがとうございます。

シオン祭開催

11月2日(土)に開かれます呈茶・ティールーム・マルシェをマカスリン大会議室にて開催予定です。お待ちしております。

新学院長ごあいさつ

神を敬い
人を愛する学院へ

横浜英和学院学院長

小久保 光世

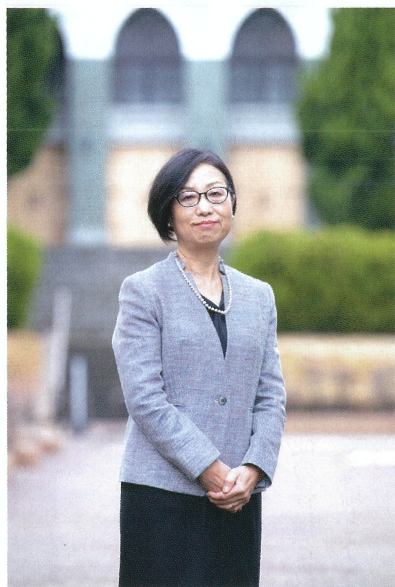
今年度より中高校長と学院長を兼務することになりました。私のような小さな欠けの多い器を神様が用いてくださろうとしていることを謙虚に受け止め、精一杯努めていきたいと思ひます。特に、幼小中高の教育の基軸となる事柄が、横浜英和学院に一貫したものであるとして機能するように統括していきたいと思ひます。

第八代校長オリブ・アイ・ハジス先生は昭和九年に発行された「丘の光」十三号に掲載された「創立記念日における英和の祈り」という文章の中で、次のように語られています。「どうか私たちが、受け継いだものの価値を尊び、日々の生活の中

で感謝の思いをあらわし、私たちが受け継いだものにさらに寄与して、より豊かなものを次の人々に譲ることができますように助けてください。私たちの口からひとつも偽りが伝えられま

せんように。私たちの生活が真実であり、私たちの心が清く正しくあなたの平安で満たされたいとお祈りします。大きいこと小さいことすべてに對し私たちが忠実であり、自分の必要はいっさいあなたが供えてくださることを知っているのです、ただ、つねにあなたのみ国をまず求め

続けていくことができませんように。」と祈られ、最後は「私たちの学校があなたの子たちに対して主イエスの精神で仕えて、あなたのみ心を喜ばせまつり、クリスチャン・ス



クールと呼ばれるのにふさわしいものとなりますように。私たちの学校が蒔田の丘の上に建てられた灯台として輝くその光を見て、人々があなたをさがめにくるようになるためには、どのようにしてあなたによりよく仕えたらよいのか、どうか教えてください。」と結ばれています。

また、丘光会発行の「九〇年史余話」には、ハジス先生は終始「神を敬い人を愛する」ことをモットーとして、子女の育成にあたられていたということが記されています。

「神を敬い人を愛する」は、まさに「心を清め人に仕えよ」の校訓と重なります。横浜英和学院に一四四年の時を越えて引

き継がれてきた精神は、神の前に敬虔に、僕として人に仕えて生きるのだと思ひます。横浜英和学院で行われてきたキリスト教信仰に基づく人格教育が、これからも継続されていくこと、それを私の使命として尽力したいと思ひます。

明治三十八年に発足した横浜英和女学校同窓会は、その後「横浜英和女学校校友会」となり、さらに昭和九年に「丘光会」と改称されました。会則には「本会はキリスト教精神に基づき会員相互の友情を深め知徳を増進し母校の発展をはかることを目的とする。」と定められています。

今年度四月に初めて四〇名の男子が丘光会の会員に加わりました。受け継がれてきた伝統と校風を活かしつつ、さらに母校の発展に寄与する同窓会として新たな活動が求められています。私自身も、学院長として同窓会の働きを積極的にバックアップしていきたいと思ひます。どうぞよろしく願ひいたします。



後もつづけてまいりたいと思います。

一人一人に寄り添った進路指導を、今

中高の 進路指導について

教頭 松村 誠

この三月、共学一期生が卒業しました。卒業生一二三九名のうち、系属校推薦で一三八名の生徒が青山学院大学に進学しました。その一方で、国公立を含め他大学を目標とし、合格を勝ち取った生徒が多くなりました。

特筆すべきは、四十数年ぶりに本校から東京大学への進学者が出たことです。高校の教育課程に「総合的探究」というものがあります。本校の総合的探究では「共生」という大きなテーマを定め、そこから、各々が課題を見つけ、考える時をもっています。彼女はこの学びを通して自分の取り組むべきことはなにかを考

え、その課題に取り組む、その成果をアピールする「学校推薦型選抜」で合格へと導かれました。

中高では進路指導の一環として昨年から「キャリア塾」という取り組みを始めました。これは進路指導が大学進学指導ではなく、実社会を学び、自分のキャリアを考える取り組みです。実際、多くの企業をお呼びし、その現場を話していただきました。また就職活動の現実も知る機会が必要と考え、青山学院大学就職課の講演も聞きました。

横浜英和学院礼拝堂の パイプオルガン

小学校音楽教師 西條 聖一

一九六四年から一九六五年にかけて、本校礼拝堂に待望のパイプオルガンが設置された。当時の日本は、西ドイツのMunchner社の楽器が多く輸入されたため、本校も同社の楽器を導入することになった。その楽器の制作、組み立ては本校旧職員で、のちに日本を代表するオルガン制作家として活躍された故辻宏氏によって行われた。

当時礼拝堂にある規模のオルガンは神奈川県下では珍しかった。(他には「関東学院」にあるだけだった。)故辻宏氏のかかわったオルガンは賛美の声にとても合う楽器が多く、本校のオルガンも毎日のように女子生徒の歌声とともに礼拝で奏でられていた。

何年もの間、このようにオルガンは演奏され続けたが、ここ数年「動物の皮」でつくられている部品が経年劣化により破れてしまうことが増え、中にはパイプに空気が入らず、出ない音がいくつも発生するようになってしまった。

いつかは楽器のオーバーホールを実施したいと願っていたが、礼拝堂を数週間にわたって閉鎖しなければならなかったために、なかなか実施することができなかった。

しかし、二〇二〇年の春、世界中を巻き込むことになった「新型コロナウイルス」の流行により、学校が閉鎖されたり、礼拝堂での礼拝を守ることができなくなってしまうたり、礼拝堂のオルガンを演奏する機会がなくなってしまう。本

が一段の合計三段あるため)楽器のオーバーホールを実施することに踏み切った。パイプを外して行うオーバーホールは、オルガンが完成した一九六五年以来実に五十六年ぶりに初めて実施された。

第一回目は、二〇二一年三月二十九日から四月三日の一週間行われた。この時はメインで演奏される第一鍵盤(Hauptwerk)のパイプ下のスライダーと呼ばれる部品とストップボックスという部品の皮の張替えが行なわれ、外したパイプも埃を落とし、きれいに整備をした。この時は特に問題なく、計画通り作業が行われた。

第二回目は、二〇二一年六月二十日から二十六日の一週間行われた。この時は小型オルガンの第二鍵盤(Schwellwerk)のスライダーとストップボックスの皮の張替え、パイプの埃落としが行われた。ここまでは順調であった。

第三回目は、二〇二一年八月十六日から二十二日の一週間行われた。この時はパイプは大型(88音)だったので、作業をするスタッフの方を増やして行われた。人間の身長よりも大きなパイプがあるので、三人がかりで外し、二階のバルコニーに運ぶという、大変な作業となった。その後、スライダーとストップボックスの皮の張替えが行われたが、Pedalのパイプの奥に送風機があるので、この時にモーターのチェックを行った。ところが、モーターが逆回転していることがわかり、風がパイプに向かって入ることは入るが、風量が弱いにもかかわらず、風音が大きく、ノイズが発生することが分かった。原因は、電源ケーブルの「+」と「-」のケーブルが逆につながっていたのである。このケーブルを差し替えば元に戻るという単純な作業ではあったが、作業するためには「電気工事技師」の資格を持つ必要がある。担当することができない人がいなかった。担当することができない人はいない状態だった。



インツ庭園」跡地の工事を行っている方がいらつしやうだったので、電気担当者の方に声をかけ、礼拝堂に来ていただき、配線を正しく接続していただき、事なきを得た。紆余曲折、大がかりな作業であったが、延べ二十日間に及ぶオーバーホールによって、オルガンは蘇った。全ての作業が完了した後に讃美歌を演奏したところ、今までのオルガンよりも音が美しくなった。作業を担当された「望月オルガン」の方々も「このような音が昔は鳴っていたのだ」と感動されていた。

今回のオーバーホールによって、電気関係を除くパイプ群のメンテナンスは無事終了し、今後十年間は問題がないとのことだった。今まで礼拝堂で演奏されてきたオルガン。これからもこの学校のシンボルの一つとして末永く音楽を奏でることを願っている。



伊藤美奈子先生を囲む会

木村 泰子 (H15)

十月十八日、チャペルの白い十字架が青空に映えこの日を祝福するかのような晴天に恵まれました。

伊藤先生は何時ものように百段を登り素晴らしい富士山に迎

えられたとのことでした。

先生と私の出会いは私が丘光会のお手伝いを始めた二〇一二年から近しくさせて頂きました。

又参加くださった皆様のような師弟関係でなく先輩後輩の間柄です。先生が高校三年生私が中学一年生で一九五七年度一年間同じ環境で夫々の学校生活を楽しくて居りました。共通する思い出はクリスチャン教育の女学校で洋館風、木造校舎、ステンドグラス、緑の芝生に菱形の水蓮の池、春には八重桜の元で園遊会と本当にセーラー服が合う乙女の学校でしょうか。

今回嬉しかったのは参加してくださった皆様が先生との思い出話の中で授業又その他の先生との出来事等を当時に戻って懐しく沢山お話しくださったことです。先生の教えの中で学生の時には理解できなかったが年を重ねた今は理解できます等生徒に寄り添って居てくださった先

生、その証として先生は食事をする暇もなく次から次へと皆様とお話しに花を咲かせ楽しく和やかなひと時を過ごされていらつしやいました。

先生から学院のお話をして頂き改めて母校の為に長い間ご尽

力くださったことに唯々感謝しかありません。参加くださった皆様も同じ思いだと思います。

先生お疲れ様でした。お体に気をつけて日々お過ごしください。

参加くださった皆様の先生への感謝の思いがひとつであった為、思い出に残る良い会に成りました。発起人の一人として大変嬉しく思います。

この会にご参加くださった皆様、心からありがとうございます。

2024年度活動予定

- 4月 8日 (月) 青山学院横浜英和中学高等学校入学式
- 5月 18日 (土) 2024年度総会(第1回代議員会を兼ねる)
- 9月 「丘光会たより」 発送
- 9月 21日 (土) 第2回代議員会
- 10月 23日 (水) 学院創立記念礼拝
- 11月 2日 (土) シオン祭
- 12月 10日 (火) 新代議員との交流会
クリスマスカード発送
- 12月 14日 (土) 蒔田の丘クリスマス

2025年

- 1月 17日 (金) 1年生茶道体験
- 1月 24日 (金) 1年生茶道体験
- 2月 卒業生対象 丘光会説明会と記念品贈呈
- 3月 3日 (月) 第77回卒業式

★聖書研究会 毎月第2木曜日午後1時半～3時
古谷正仁牧師 於：蒔田教会

★讃美歌を歌う会 毎月第4火曜日午前10時半～12時
於：ファミリールーム

クリスマスカードを

送っています！

毎年八十歳、六十歳になられた方々に、クリスマスカードをお送りしています。今回はH14の方とH34の方、災害等に被災された地方の方、カード御希望の方三七〇名余りの方々に送らせて頂きました。御希望の方は、丘光会へ御連絡ください。

Merry Christmas
2023 丘光会



「いとおきところには栄光、輝にあり。
地には平和、静心に通う人にあり。」
山崎より前掲書第2巻148頁

活躍する英和ファミリー



寺井 美喜さん (H61)



横浜の街で英和の制服姿の学生を見かけると、自分が学生時代だった頃の光景が蘇り、微笑まずにはいられません。卒業してから十五年近く経ちますが、通学に毎日登った百段階階段、友人と共に過ごした校舎を昨日のように思い出しながら、丘光会たよりにて振り返ります。

さて私は今、日本の伝統文化である能楽を職業としております。そもそも能楽師になるきっかけは、父が観世流シテ方の能楽師であり、家庭環境から自ずと能楽師を志すようになりました。幼い頃から年に数回ですが、能楽専門の劇場・能舞台で演じる機会もありましたので、その舞台に向けて稽古をしておりました。また父方の祖父は、能楽囃子の笛方のプロでしたので、私にとってのBGMは笛の音色でした。軽やかでありながら重厚感のある能管の音色が昔から大好きでした。師匠でもある父とは、幼い頃より楽

しく稽古をしておりました。将来能楽師になるよう強制されたことは一度もなかったように思います。しかし、私がプロの能楽師になりたいと伝えた際には、父はもちろん家族が快く背中を押してくれました。大学進学に関しても、能楽師になるために、と考え大学選びをいたしました。大学卒業後、師匠である父のもとで修業することも、最後は自分の意志で決めました。

現在、日本のプロの能楽師は約千人おりますが、その中でも女性は一割程度しかおりません。能の演目や能楽堂によっては、女人禁制の演目、舞台が今も尚ございます。それは室町時代から約七〇〇年続く長い歴史がある能の世界では、当たり前なことであり、抵抗できることはございません。しかし近年は有難いことに、少しずつではありますが日本でも多様性の時代になりつつあり、女性も男性社会の根強い能の世界で活躍できる機会を与えていただいております。また私には八上姉がいます。同じ女流能楽師ですので、能の世界でも心強い味方でいてくれます。

最近では、海外公演等に参加する機会もございます。外国の日本人学校等でのワークショップには一人で行くこともございますが、その際には学生時代の思い出のひとつとして、オーストラリアの姉妹校へ短期留学で勉強に行ったことを思い出します。もちろん、ホームステイ先

や現地の学校での授業は素晴らしい経験でした。また、留学出発当初は直行便にてオーストラリアのメルボルンに降り立つ予定でしたが、急遽ケアンズでの乗り換えが必要になり、一緒に留学する友達と不安を抱えながらもアルファベットの標識を一生懸命確認しながら、無事に乗り換えたことを鮮明に覚えています。経験値が少ない私達にとっては、乗り換えだけでも一大事でした。当時は将来能楽師としてビジネスで海外公演に行くなんて想像しておりませんでしたので、拙い英語ではございますが、今では留学の経験を大いに活かすことができていると実感いたします。主な職場である能楽堂が東京銀座にございますので、たくさんの外国のお客様もお越しくださいます。一人でも多くの方とコミュニケーションを取れることで、芸術や文化には言葉や年齢・性別を超越して、美しさや感動を共有できるのだと学んでおります。

一昨年、約十年ぶりに母校を訪れる機会がございました。当時お世話になった先生方にもお会いすることができ、仕事への励ましもいただきました。尚且つ有難いことに、舞台がある際には応援していただきました。卒業しても変わらず縁が続いていることに感謝いたします。

最後になりましたが、横浜英和で勉強、経験し培った事は、今でも私の生活の土台となるものです。これから先、能の世界でより努力、精進し続けていくために、青春を過ごした場所からエネルギーをもらえることは、大変幸せな事だと実感しております。

学院創立記念礼拝

十月二十五日

ジュニアは境田直美さん(H38)、シニアは加太典子牧師(H30)に礼拝していただきました。

英和の思い出

加太 典子(H30)

英和と、聞いて、真っ先に思い出したのは、何と言っても、給食に出ていたパンです。

今は、市販のパンをお食べになっていると思いますが、私が通っていた頃は、給食のパンは、パン焼きの専門の白いお帽子をかぶったおじ様が焼いていました。十時を過ぎるくらいになると、焼き上がり前の何とも言えないあの美味しパンの匂いが給食室のオーブンから校内に広がっていました。

ひな祭りには、食紅で赤くしたパン、よもぎで色付けたパン、そしていつもの白いパンの三枚を重ねてくださいました。たぶん、菱餅の代わりですね。そして、ストープにフオークにつけたパンをかざして、トーストして、銀リズのマーガリンをつけて食べると本当に美味し！勿論、トーストしているのを、先生に見つかると怒られました。

英和の仲良しがいっぱいあります。「私達がこんなにもパン好きなのは、給食であの焼き立てパンを食べていたからだよね!」正しくその通りです。Amen! Amen!

二〇二三年度丘光会 活動報告

第二回代議員会

九月三十日

マカスリン大会議室において二十五名の代議員により、和やかな雰囲気の中、次の事が可決されました。

一、シオン祭について

教職員食堂において呈茶とマルシエの提供

二、ブリテンファンドへの寄付

コロナ禍において、シオン祭時毎年していた献金が三年間出来なかった為、三年分一〇〇万円をブリテンファンドの寄付に当てる

三、その他

聖書研究会への参加呼びかけ
この内容で進行し滞りなく終了しました。

久しぶりのシオン祭

十一月三日

十一月三日（金）晴天、そして十一月としては記録的な暑さ、夏日となった中、四年ぶり



にお客様をお迎えして開催されました。

丘光会は、第一校舎二階の教職員食堂にて、「お抹茶とお菓子」のお席と「マルシエ」で参

加させて頂きました。

静かな落ち着いたお席でゆったりとお茶とお菓子、そしておしゃべりを楽しんでいただき、一一〇セット完売となり、学院への献金も十万円をお献げいたしました。

「マルシエ」としてご参加いただきました、オリーブオイル、トルコの装飾品、手編みバック、アクセサリー、紅茶とマドレーヌ等のブースも多くのお客様にお越しいただき、大盛況のうちに終わらせることができました。

世界では戦争や大きな自然災害が頻繁に起き、心落ち着かな

い日々ではありますが、また来年も無事にシオン祭が開催できる平穏無事な日本であることを心より祈りたいと思います。

舩屋 由美子（H25）

新代議員へのウェルカムアフタヌーンティー

十二月十二日

十二月十二日（火）二〇二四

年度より丘光会会員となる第七六回生の代議員十二人を招いてファミリールームに於いて歓迎会を開催しました。今回は初めての男子代議員参加となり六年間の学校の様子など積極的な話をしてくれました。これから卒業生各クラスのパイプ役となる



大事な役目を荷ってくださるようお願いいたします。さやかな時間でしたが良い会となりました。

時田の丘クリスマス

十二月十八日

十二月十八日（火）ブリテンホールにて行われました。小学生から高校生までハンドベルやコーラス等クリスマスならではの楽曲の演奏を聴くことができました。丘光会は会場の受付等をお手伝いいたしました。

岩本 紀子（H26）

卒業生対象

丘光会説明会

二月二十七日

二月二十七日（火）ブリテンホールにて新しく丘光会会員となる二三九名に丘光会の説明をして某コーヒーチェーンのカードを贈呈しました。母校への誇りと愛情を持ち続けてくれることを願っています。





先生方（小宮まゆみ先生、坂倉節子先生、多賀栄子先生）にご参加いただきました。礼拝のあとに記念撮影、小宮先生

還暦を迎えた六十二名の卒業生と共に、三名のクラス担任の先生方（小宮まゆみ先生、坂倉

報告

第34期生同期会開催

二〇二四年三月三十日（土）

同窓会のお知らせ

同窓会、クラス会の報告、これから予定しているお知らせなどを掲載するコーナーです。クラス会の報告や楽しい写真などをお寄せください。学院本館マカスリン大会議室を、クラス会などに使用できます。是非ご利用ください。



幹事一同（H25）

梅雨の合間の晴天に恵まれた六月二十二日（土）にH25の古希同期会を開きました（先生五名 同期五十二名）。マカスリン大会議室での先生方のお話は私達の今後を照らし導いてくださる貴重なものとなりました。礼拝堂での早島さんのパイプオルガン伴奏で讃美歌を歌い母校で開催ならではの楽しいひと時を共に過ごすことが出来ました。

報告

第25期生同期会開催

二〇二四年六月二十日（土）

の解説と先導で校内見学をしました。当日は晴天にも恵まれ、懐かしく楽しいひとときを過ごすことができました。母校に感謝申し上げます。尚、参加費残金の一部を丘光会口座に寄付送金させていただきました。少しですがお納めください。

大久保 宏美（H34）

支部報告

◆丘光会関西支部

支部長の小畑淑江さん（H10）より関西支部を二〇二三年度末をもって休会する旨連絡をいただきました。長い間活動のためご奉仕をしていただきありがとうございます。

◆丘光会東海支部

名和 ナオミ（H25）

丘光会東海支部を始めさせていただき早いもので十三年になります。今年は当時おられた役員さんがほぼ退任された新役員さんが活躍されています。生まれたばかりのアヒルが親のお尻を見ながら必死について行くように、私も先輩方の後についてまいりました。気が付いたら「アレツツ？」よそのお母さんの後についていつてる☺️」というような迷子気分もありますが、新役員の皆様は学院の新しい時代を築くという大役を、力強

二〇二四年度丘光会総会

二〇二四年五月十八日、礼拝堂に於て総会が開催されました。活動報告・計画案、収支報告、予算案の議案の承認を得ました。

議事後、新学院長・校長小久保光世先生と松村誠先生にお話をいただきました。

四十名出席



く踏み固めてくださっています。丘光会本部の役員さんとサポーターの皆さんのご奉仕なしに学院の歴史を繋ぐことはできません。ただ生き残るだけの学校ではなく、在校した生徒たちが、「あの時間を過ごして良かった！」と思えるような実を結実させていたいただきたいですね。

—あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前で、私を喜びで満たしてください。—

使徒の働き2…28

2023年度召天会員 (2023.4 より 2024.3迄)

卒業回	召天会員名	旧姓	召天日	卒業回	召天会員名	旧姓	召天日	卒業回	召天会員名	旧姓	召天日
C51	内藤 美和子	細田	2023.03	H10	福谷 尊子	北島	2023.09	H19	中村 るみ子		2022.03
C52	白倉 久	吉田	2023.10	H11	日野 千代子	沼田	2022.02	H20	浜田 小夜子	新井	不明
C54	猪俣 ミチエ		2022.12	H13	鍵和田 洋子	古農	2023.04	H22	石渡 由美子	宮川	2023.06
C59	今村 朋子	斉藤	2022.10	H14	宮本 恭子		2022.06	H25	千野 美知子		不明
C60	大沢 多栄子	小沢	2023.06	H15	磯野 優子		2022.12	H25	板本 紀代美	渡辺	不明
H03	中島 賀子	布施	2020.03	H15	河合 和子	蒲谷	不明	H25	平本 真理子		不明
H03	川尻 弘子	大島	2016.08	H16	矢島 洋子	清水	2023.06	H34	林 理壁		2019.04
H03	角田 嘉子	山中	2023.09	H17	山下 育恵	植木	2022.01	H45	比佐 友子		2023.06
H06	三山 明子	湯浅	10年程前	H18	鈴木 昌子	遠藤	2022.07				
H08	糸井 富美江	伊藤	2023.11	H18	伊藤 久美子	梅本	2023.11				

住所変更、姓名変更、召天会員などお知り合いにいたらご連絡を。

2023年度会計報告

2023年4月1日～2024年3月31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額 (円)	科 目	金 額 (円)
会費 (H77/78回生)	2,696,500	総会費	153,520
学院報郵送料	147,200	シオン祭経費	46,207
総会費他	100,000	シオン祭献金	100,000
シオン祭収益金	70,000	蒔田の丘X'mas 献金	55,000
シオン祭献金	50,000	海外伝道者献金	10,000
蒔田の丘X'mas 献金	48,000	活動費 (会議費、役員手当他)	165,310
その他献金	81,000	丘光会たより (製作費・送料)	1,640,119
活動への寄付	78,728	聖書研究会 (牧師御礼)	210,800
銀行利息 (普通・定期預金)	163	支部活動費 (関西・東海支部)	65,000
雑収入	0	能登災害募金	80,000
		交通費	219,572
		慶弔費 (卒業祝品)	42,000
		新入会員記念品 (H76生)	239,770
		通信費 (切手・葉書他)	58,525
		事務消耗品 (X'mas カード制作費含)	48,322
		代議員会	5,792
		ブリンファンダ	1,000,000
当期収入合計	3,271,591	当期支出合計	4,139,937
前期繰越額	1,332,209	次期繰越額	463,863
収入合計	4,603,800	支出合計	4,603,800

献金者一覧

(含・シオン祭、クリスマス、
丘光会活動へ寄附)

2023年4月1日～2024年3月31日



その他 H25 寺島みちる, H25 向井 恵子, H25 高橋千恵子, H25 阿部 久子, H25 名和ナオミ, H19 山口 優子, H19 小堀 伸子, H19 小中沢 富江

ト教会/好善社、オリバープレス、台北三番協、／ゆうの風／ペンギンA、／ヘルプ／女性の家、学院/女学生の家、左記の団体へ、献金をお送りしました。

名簿担当からお願い

最近、当学院の名簿を基にして詐欺商法まがいの電話が卒業生の自宅に掛かってくるという事例を幾つか耳にしました。卒業生名簿は丘光会が管理しており外部へ漏らすという事はありません。しかし以前の卒業生名簿は広く卒業生に配布されておりますので、名簿業者に渡るなどは当丘光会として責任を負いかねるところではあります。皆様クラス会名簿作成などの際には是非細心の注意を払ってお取り扱いいただきたいとお願い申し上げます。

丘光会たよりについて

- *ご高齢になられ、ご家族から“送付は結構です”という連絡を頂く事があります。様々な御事情で送付の必要のない方は、丘光会へ御一報ください。
- *会報が届いていない同窓生をご存じの方は、ご本人の同意を得た上で、代理でのご連絡を頂ければ幸いです。